

都市再生整備計画 事後評価シート  
須賀川南部地区

平成25年7月

福島県須賀川市

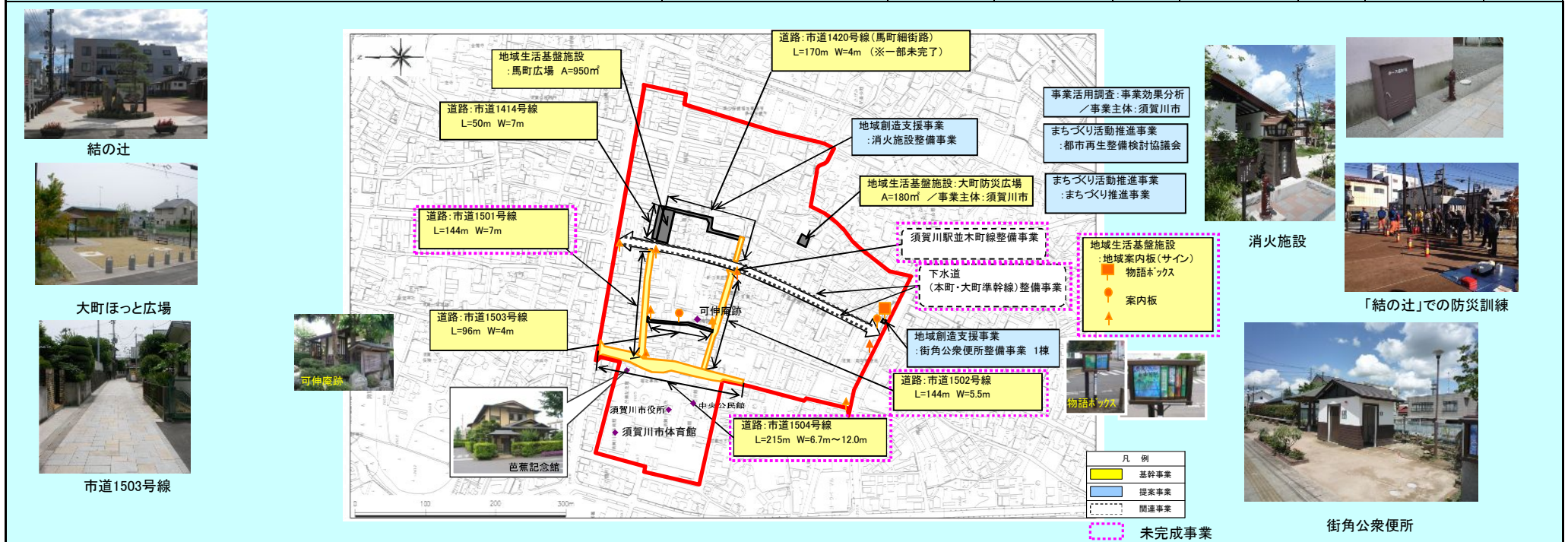
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県	市町村名	須賀川市	地区名	須賀川南部地区			面積	14.8ha				
交付期間	平成20年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	260百万円	国費率	0.4						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 市道1414号線、市道1420号線(馬町細街路)、市道1501号線、市道1502号線、市道1503号線、市道1504号線、地域案内板、馬町広場、大町防災広場										
		提案事業	街角公衆便所整備事業、消火施設整備事業、事業効果分析、都市再生整備検討協議会、まちづくり推進事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	市道1501号線、市道1502号線、市道1504号線、市道1420号線の一部、地域案内板	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	まちづくり推進事業(うち、マップ作成)	東日本大震災により、観光の核となる芭蕉記念館が被災し、また、回遊路となる市道の整備が困難なため、それに関連する本事業を休止			来訪者の回遊性を高めるための案内が難しくなることから、地区往來者数の増加が伸び悩むことが懸念される。						
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-			-						
	提案事業	-	-			-							
交付期間の変更	当初	平成20年度～24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-							
	変更	なし	-			-							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	風流満足度	%	34.3	H19	50.0	H24	39.0	39.0	△	あり	市道の舗装整備は風流満足度の改善にある程度の効果を上げている。また「結の辻」における芭蕉まつりなどのイベント実施も貢献している。被災意識が落ち着いて、未整備箇所の景観舗装が整備されれば、指標の値が上がる可能性がある。	-
	指標2	安全・安心満足度	%	41.2	H19	60.0	H24	41.5	41.5	△	あり	身近に防災施設ができ、ある程度の効果があったと考えられるが、震災時の情報発信体制について不満が多かったことから、全体として安全・安心満足度は微増となっている。	-
指標3	地区往來者数	人/年	5,823	H18	6,500	H24	3,248	3,369	×	あり	平成22年度までの地区往來者数は若干の増加傾向にあったが、東日本大震災により観光客受け入れの核となる芭蕉記念館が被災したことにより入れ込み客数が激減した。	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	景観に配慮した新築・改築等建物棟数	棟	0	H19			-	8			景観に配慮した建物を目にする機会が増えたことから、自主的に協定事項を参考に改築を行う事例も見られるようになった。	-
	その他の数値指標2	防災訓練の開催数	回	0	H19			-	2			馬町広場や大町防災広場が整備されたことにより、防災訓練を開催するきっかけができた。	-
	その他の数値指標3	「結の辻」を利用した地域活動開催数	回	0	H19			-	42			地域活動を行う場ができたことにより、活動が活発に行われるようになった。	-
	その他の数値指標4	芭蕉記念館の全体の入込み客数	人/年	10,269	H18			-	4,991			年々増加傾向にあったが、東日本大震災の影響により入込み客数が激減した。	-
4) 定性的な効果発現状況	南部地区のまちづくりに関する関心が高まっている。												
5) 実施過程の評価		実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	事業効果分析事業として、アンケート調査、効果発現要因分析等を実施した。			都市再生整備計画に記載できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 東日本大震災の影響により、市民意識が大きく転換していることがわかった。県道の整備完了後に次期計画と合わせて確認を行うことを検討する。					
	住民参加プロセス	「NPO法人チャチャチャ21」、「風流のまち創出プロジェクト」と連携してイベントや社会実験、食の開発(回遊食)等を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 市民にも理解してもらえよう、整備箇所を利用した各種イベントを定期的 に実施し、「風流とはどういうことか？」をみんなで体感できる機会を増やしていく。					
持続的なまちづくり体制の構築	「NPO法人チャチャチャ21」、「風流のまち創出プロジェクト」と今後の体制のあり方に関する情報交換を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後もさらに各団体との連携を深め、次の世代構築を行っていく。						

## 様式2-2 地区の概要

### 須賀川南部地区(福島県須賀川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:『あんみっつ 心でつなぐ 風流のまち』 目標①: 芭蕉が感じた風流の再生 目標②: 良好な住環境の形成による、安心・安全・安住「あんみっつ」のまちづくり 目標③: 住民意識の醸成とまちづくり活動支援	風流満足度	単位: %	34.3 H19	50.0 H24	39.0 H24
	安全・安心満足度	単位: %	41.2 H19	60.0 H24	41.5 H24
	地区往来者数	単位: 人/年	5,823 H18	6,500 H24	3,369 H24



**まちの課題の変化**

・公園やトイレ、舗装整備により地区生活の快適性が向上したとともに、「結の辻」や「大町ほっと広場」が井戸、消火栓、太陽光発電の照明施設等の防災施設の設置により防災公園として整備されたことで、地区の安全性が向上した。東日本大震災時に、結の辻の手こぎポンプが機能し生活用水の確保に役立った。しかし、震災を経験したことで、住民の防災意識が高まり、防災無線の聞き取りにくい地域の解消等、更なる整備を進めていくことが必要であり、地区生活の快適性の更なる向上が必要である。

・道路改修が実施されたことにより、当該地区内の地域資源のネットワーク化が進んだ。地域資源と調和した建物が増えたことや、芭蕉まつりなどのイベントが行われたことで、地域文化の継承と発信が進んだ。しかし、東日本大震災の影響による、芭蕉記念館の被災、歴史ある蔵などの倒壊、空き家・空き地の増加などにより、地域資源をいかに再生するかという新たな課題が発生した。

・結の辻を拠点として、各種イベントを開催したことにより既存商店街の利用が図られ、賑わい再生の取り組みの認知度が上がった。また、イベントを通じた世代間の交流が少しずつ図られるようになってきている。しかし、東日本大震災以降は、芭蕉記念館が被災したことなどにより、地区内の来訪者も減少していることから、さらなる交流促進と、まちの活性化を図るため、平常時の地区往来者が増加する取り組みを推進する必要がある。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

・地区生活の安全性の持続・地区の生活快適性確保  
災害時には誰もが防災公園を活用できるように施設の整備内容や利用の仕方の周知を図る。また、市庁舎や防災広場・商店街等の生活に関わる近隣施設までの利便性の向上を図る。下水道整備と接続促進による住環境の向上を図る。

・文化の継承と発信の持続・蔵の保全と凍結事業等の実施  
地域文化を活かしたイベントを継続的に実施し、地域資源の魅力を伝える情報発信力の向上を図る。蔵等の歴史的建造物が極力保全されるよう行政支援を行う。風流を感じる空間を増やすための道路改良区間の延伸を実施する。

・交流の持続・芭蕉記念館の活用とまちなか居住の促進  
イベントを通じて、来訪者と商店街や南部地区の住民とが交流できるような仕掛けづくりを強化する。松尾芭蕉と相楽等駒との交流に着目し、芭蕉記念館を核とした地域資源のPRと来訪者の呼び込み、まちなかへの誘客を一体的に行う。人が集まるよう、空き家や空き地などを減らし、まちなかの賑わいを取り戻す方針を検討する。